

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育方針

校訓「自主・創造・連帯」のもと、「翔べよ遙か狭山生」をキャッチフレーズとして、グローバルセンスとローカルセンスを兼ね備え、高いコミュニケーション能力（リーダーシップ・フォロワーシップ）や心優しき人間性を持って、地域社会においてパートナーシップを構築しけん引する「自主創造型グローバルリーダー」を育成する。

- 1 学力向上と第一志望の進路実現をめざし、「チームさやま」として教職員が一丸となって、頑張る生徒を応援し課題を抱える生徒を支える学校
- 2 国際交流（姉妹校連携）や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域連携（大阪狭山市唯一の高校）の取り組みやSDGsをテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高める教育を実践する学校
- 3 学校行事やクラブ活動など協働的な活動を通して、自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しき人間性を高める学校

2 中期的目標

○令和6年度より3年間、「新時代に対応した高等学校改革推進事業」研究指定校として、令和8年度入学生からの新しい普通科カリキュラムを策定している。探究的な学習を中心とした深い学びの実施や地域社会との交流等により主体的に学びに向かう生徒の人間性を伸長させ、ウェルビーイングの向上に寄与する資質・能力の育成をめざす。

1 さらなる学力向上と進路保障

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」をめざし、「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学びに向き合う力」を育成する授業づくりに取り組む。
 - ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、発表、議論・パフォーマンス課題を通じて「思考力・判断力・表現力」を向上させるとともに、探究的な学びや観点別学習評価についてさらに研究を進める。委員会や教科で単元計画・評価計画を策定し、ルーブリックなどを共有しながらチームで取り組む。
*単元の逆向き設計により、本質的な問いを設定。①思考の発芽（図書館・インターネットの活用）、②思考の見える化（学習支援ソフト・グループワーク）、思考のゆさぶり（発表・議論・パフォーマンス課題）など、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業へと転換をはかる、また、振り返りシートを共有するなど、学び方を協働的に学ぶことで「主体的に学びに向き合う力」を育成する。
 - イ リーディングGIGAハイスクール指定校として、1人1台端末や導入された最新型プロジェクター等のICT機器を活用し、対話的に思考を深め、学び方を協働的に学ぶ授業をめざす。1人1台端末活用のアクションプランを意識し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。
- (2) 第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。
 - ア 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、3年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。
 - イ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。
 - ウ 国公立大学・難関私立大学ゼミを実施し、難関大学への入試に必要な力を育成する。
※生徒向け学校教育自己診断「授業満足度」、「授業の工夫度」、「カリキュラム満足度」を令和9年度に3項目すべてにおいて88%以上をめざす。（「授業満足度 R4:89.3%、R5:88.6%、R6:88.3%」「授業の工夫度」(R4:94.3%、R5:92.4%、R6:92.0%)「カリキュラム満足度」(R4:87.7%、R5:89.1%、R6:90.0%)
※進路ガイダンス/進学講習の充実を令和9年度まで85%以上の維持・向上をめざす。(R4:94.4%、R5:93.9%、R6:94.8%)
※教職員向け学校教育自己診断「系統的な進路指導の実施」を令和9年度に80%以上の維持・向上をめざす。(R4:68.1%、R5:87.5%、R6:83.3%)
※国公立・関関同立 合格者のべ70人以上をめざす。(R4:46人、R5:49人、R6:40人)

2 キャリア教育のための環境づくり

- (1) 夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。
 - ア 国際交流（姉妹校連携）や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域連携（大阪狭山市唯一の高校）の取り組みやSDGs等をテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高めるプログラムを展開する。
 - イ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要な3年間の系統だったプログラムを展開する。
 - ウ 読書活動を推進する（探究的な学びとしてビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る）。
※生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育満足度」を令和9年まで85%以上の維持・向上をめざす。(R4:94.4%、R5:93.9%、R6:94.8%)
- (2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。
 - ア すべての生徒に、基本的人権や人権問題の認識を広め、高い人権意識を育てる。
 - イ 1人1台端末を活用し、情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。
※生徒向け学校教育自己診断「人権（人権の尊重）」の肯定的評価を令和9年度まで85%以上の維持・向上をめざす。(R4:92.2%、R5:88.8%、R6:87.3%)
※教職員向け自己診断「人権尊重に学校全体で取り組む」を令和9年度に80%以上に向上する。(R4:62.8%、R5:79.2%、R6:74.4%)
- (3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。
 - ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SC・SSWとも連携しながら、教育相談支援委員会のコア会議を定例開催とするなど生徒支援体制を充実させる。特に、入学以前から生活環境に課題のある家庭やヤングケアラーの実態については、高校生活支援カードや日常生活アンケートを活用し、早期発見・把握に努め、適切な支援につなげる。
 - イ 自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しき人間性を高めるために、部活動、生徒会活動等の活性化を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を多く与える工夫をする。
※生徒向け学校教育自己診断「学校生活満足度」令和9年度まで90%以上の維持・向上をめざす。(R4:92.9%、R5:91.5%、R6:91.7%)
同じく「相談体制満足度」を令和9年度まで70%以上の維持・向上をめざす。(R4:78.6%、R5:78.6%、R6:75.3%)

3 学校改革に向けての体制づくり

(1) 教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。

ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、組織的な対応を推進する。

地震・台風等の自然災害、インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。

イ 昨今の教職員の業務の増加をふまえ、さらなる「働き方改革」を推進し、校務の精査と教職員の負担軽減、職務の平準化を図る。

ウ 超過勤務の削減及び各種休暇の計画的取得を推進する。

(2) 学校に関わる団体（PTA、同窓会、後援会、地域行政、地域住民）との連携を強化し、広報・情報発信に取り組む。

ア 中高連携として、中学校との授業交流・クラブ交流を実施し、教育内容の充実につなげるとともに広報・情報発信に取り組む。

イ 地域の行事への参加や「狭山カップ」等の実施により地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し交流を深める。

※教職員向け学校教育自己診断「学校運営の勤務充実度」を令和9年度に90%以上の維持・向上をめざす。(R4:95.7%、R5:90.2%、R6:84.8%)

※保護者向け学校教育自己診断「学校満足度」を令和9年度まで90%以上の維持・向上をめざす。(R4:90.6%、R5:90.8%、R6:91.7%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和8年1月実施分]	学校運営協議会からの意見																																
<p>【1 学習指導】 生徒向けの質問項目のうち「本校の先生は教え方に様々な工夫をしていると思いますか」が91.7% (-0.3p)と肯定的回答が高い水準にあるが、「本校の授業はあなたの期待に応えることができていると思いますか」は85.6% (-2.7p)、「本校のカリキュラムはあなたの興味、関心、適性、進路に応じた選択ができるものだと思いますか」は86.8% (-3.2p)と下降しており学習面で不満を感じている生徒が存在している可能性がある。(※下記一覧表)。分掌、学年、各教科等が連携して生徒のニーズや実態を丁寧に把握・分析して学習指導の改善の方向性を明らかにするとともに、学習に対する指導・支援を含めた教育活動の充実、教育環境の整備に取り組み、主体的・対話的で深い学びをめざした授業力向上を進めていきたい。 ※質問項目に「1 とてもそう思う」「2 どちらかといえばそう思う」の合計比率(単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="147 1359 928 1498"> <thead> <tr> <th>肯定的回答の比率</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業の工夫</td> <td>83.9</td> <td>83.6</td> <td>89.3</td> <td>94.3</td> <td>92.4</td> <td>92.0</td> <td>91.7</td> </tr> <tr> <td>期待に応える授業</td> <td>77.5</td> <td>78.7</td> <td>82.6</td> <td>89.3</td> <td>88.6</td> <td>88.3</td> <td>85.6</td> </tr> <tr> <td>カリキュラム</td> <td>77.7</td> <td>81.2</td> <td>86.6</td> <td>87.7</td> <td>89.1</td> <td>90.0</td> <td>86.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>【2 進路指導】 進路指導に関する質問で、「あなたは進路実現に向けて、真面目に学習に取り組んでいますか」の肯定的回答は84.0%(±0)であった。学年別では1年生80.9%、2年生76.9%、3年生94.6%で、2、3年生の経年変化を見ると、2年生は77.6%→76.9%と下降した。3年生は76.6%→81.3%→94.6%と推移している。3年生は入学時から学年を追うごとに上昇、特に2年から3年にかけての進路実現に向けた意識の高まりは顕著である。学年による計画的な面談の実施や、各教科の授業や部活動など様々な立場で関わる教員が日々の会話の中で小まめな言葉の投げかけを行うなど、生徒自らが進路について考えるきっかけを意図的につくり、啐啄同時に進路意識を高めるための取り組みを実施していくことが肝要である。</p> <p>【3 高校生活】 (1) 高校生活の充実度及び教育相談体制 「あなたは、本校でいきいきと充実した生活ができていると思いますか」に対して91.3% (-0.4p)の生徒が肯定的回答をした。「あなたは本校で、友好的な人間関係を築けていると思いますか」に対しては94.5%(±0p)が肯定的な回答で、そのうち63.2%(+3.7p)が「強く思う」としている。例年90%~95%で高位で安定している。 「担任の先生以外で保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいると思いますか」の問いには74.6% (-0.7p)の肯定的回答であった。担任に対して何でも相談できる関係はおおむね築けていると感じているが、さらに担任以外にも相談できる教員が複数いることが望ましい。今後も様々な教員が1人の生徒に関われるような教育相談体制を維持する必要がある。</p> <p>(2) 学校行事 本年度も「本校の文化祭、遠足や修学旅行などの学校行事は楽しめるように工夫されていますか」に対して94.4% (-1.2p)の生徒が肯定的回答をした。生徒がより主体的な活動をすることができるよう、生徒会執行部を中心に生徒主体の運営を進めてきた成果である。体育祭では大阪狭山市半田幼稚園の園児による演目披露が実施された。9月6日・7日開催の文化祭は保護者・近隣の方々など2日間で約3000名が来場した。修学旅行については、2年生(45期)が総合的な探究の時間と連動させた「沖縄探究」を経て、11月に沖縄3泊4日の日程で実施した。天候にも恵まれ、民泊体験やマリンスポーツなど生徒にとって大阪では体験できない良い思い出となった。また各学年団が趣向を凝らした学年行事を計画している。こうした様々な取組が、生徒の自主性や社会性を育み、生徒同士の良好な人間</p>	肯定的回答の比率	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	授業の工夫	83.9	83.6	89.3	94.3	92.4	92.0	91.7	期待に応える授業	77.5	78.7	82.6	89.3	88.6	88.3	85.6	カリキュラム	77.7	81.2	86.6	87.7	89.1	90.0	86.8	<p>第1回学校運営協議会(6月13日) (学校経営計画について) (進路結果・スマート進路について) ・データの蓄積とシステムの整理によって病院のカルテのように分かりやすくなるのであれば進めてもらいたい。 (アドミッションポリシーと特色枠について) ・特色枠については、入試方法が変わることへの不安が中学の現場にある。(中学校) ・面接など特色を前面にだしすぎること敬遠される可能性もあるのではないかと塾では分析している。教科の配点を変更したものであるとわかりやすい。(塾経営者) ・英語や国語に強い生徒がポリシーに合致するようにつくるのは一理ある。 ・私立も公立に合わせた受験対応をしてくる。作文等もあるがシンプルなものが一番わかりやすい。 ・理科、社会の科目の方が真面目な受験生は頑張るのではないかと。 ・大学受験の指導の中では大学が生徒をどれだけ大学生活で伸ばせるかを見ている。高校も「うちの学校に入ればこれだけ伸ばしますよ」といったアピールをしてもらうのが一番だと思う。(塾経営者) ・プレゼンテーション等の試験になると、行きたくても受験を敬遠する子もいるのではないかと。平等にみるようなものにしてもらいたい。(保護者) (普通科改革) ・(カリキュラムにおいて)狭山がモデル校として進めていく。探究の授業を受けただけでなく、こんな風変わった、身に付くものがあつたなどのことが発信できると良い。</p> <p>第2回学校運営協議会(12月5日) (教科書選定について)承認 (学校教育自己診断項目について) ・紙媒体での回収で、ほぼ全員が回答してもらっていることに驚いた。(委員長) (特色枠について) ・(概要説明後、塾での動向について)希望については大きく変わることはないと思込している。私立についても微増という感じをもっている。(塾経営者) ・生徒保護者が混乱しないようにしてもらいたい。 (委員長) (探究発表会について) ・生徒がいきいきと発表していることはよかった。 ・修学旅行の民泊について詳細にききたい。(民泊の満足度の高さの報告を受けた上で)探究という意味で発表との関連はよかったのでは(JICA) ・中2の子どもが「狭山が変わる」という情報が回っていると聞き、普通科ではなくなるという勘違いがあるようだ。そうではないことを説明してもらえたら。また、修学旅行の様子を聞いて安心した。(保護者)</p> <p>第3回学校運営協議会(2月13日) (学校経営計画の令和7年度自己評価案及び令和8年度計画案について説明) (委員からの意見) ・近隣中学の動向(私立無償化による流出等)を踏まえ、狭山高校ならではの新学科の魅力を打ち出すことが重要である。(塾経営者・中学校校長) ・探究学習の題材として、JICAや民間企業の知見(チョコレートを題材とした国際理解教育教材等)を活用するなどして、社会とつながる機会を増やす取組みにしてもらいたい。(JICA) ・新学科の名称(文理探究科)が中学生にとって抽象的なため、「地域を題材に、具体的にどのような力が身につくのか」を分かりやすく発信してもらいたい。(塾経営者)</p>
肯定的回答の比率	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7																										
授業の工夫	83.9	83.6	89.3	94.3	92.4	92.0	91.7																										
期待に応える授業	77.5	78.7	82.6	89.3	88.6	88.3	85.6																										
カリキュラム	77.7	81.2	86.6	87.7	89.1	90.0	86.8																										

<p>関係の構築に結びついていると考えている。</p> <p>(3)部活動 生徒向けの「あなたは、部活動に積極的に取り組んでいると思いますか」の質問に対して、77.2.0%(+6.2p)が肯定的回答であった。運動系・文化系合わせて約80%であった加入率が徐々に減少しつつあるが、74%(−1.0p)と下降した。対外試合や発表会を通じて多くの体験を積むことができること、高校時代の部活動でしか経験できない先輩、後輩、顧問の教員、外部指導者、他校の生徒などとの広い範囲の人間関係を学ぶことは、社会人になった時に大きな財産になる。学習との両立を配慮した上で引き続き、加入率を上げることと生徒の積極的な取組みが促進するよう注力する。教員向けの「本校では生徒が充実感を得られるように部活動を運営していると思いますか」は93.9%(−2.0p)であった。</p> <p>(4)国際交流 2つの姉妹校のうち、オーストラリアのCarey校との対面交流は今年再開された。6月に1人1台端末を使ってオンライン交流(参加者18名)を実施した後、8月に本校生徒18名・引率教員2名が渡豪し。ホームステイを経験しながら交流を深めた。9月29日からの3日間は、Carey校から生徒23名・引率教員3名が来日。Carey校の生徒・教員は堺市内のホテルに滞在しながら、公共交通機関を使って登校した。滞在中、Carey校の生徒は本校生徒とバディを組み行動を共にし、クラスの一員となって本校の授業を受けたり、クラブ活動に参加したりした。留学生受け入れにより、全校生徒に異文化理解の機会を設けることができた。12月には、もう一つの姉妹校・韓国の景福高校とオンライン交流(参加者20名)を実施した。「本校が行っている語学研修等の国際交流事業は魅力があると思いますか」は86.1%(+5.2p)であった。今後も姉妹校2校との交流を継続するとともに、国際交流に興味をもっている生徒のニーズに応えられるよう、次年度は「海外長期留学制度」を復活させ、長期に入学を希望する生徒への情報提供や募集を行っていききたい。</p> <p>(5)地域ボランティア 今年度も「狭山池まつり」、「狭山池クリーンアクション」、大阪狭山市民館主催の「新春子どもまつり」等、様々な地域イベントが開催され、多くの文化部の参加、運動部の準備等の参加によって盛況となった。「あなたは本校の地域清掃や地域連携活動でボランティア精神が高まったと思いますか」の質問に対する肯定的回答は74.3%(−0.8p)となっている。こうした地域と連携した活動への参加・参画により、本校生徒は異年齢の様々な方々と一緒に「コト」を成し遂げる過程で、多様な価値観に触れて視野を広めたり、自己有用感・自己肯定感を育んだりすることができる。大阪狭山市との連携協定締結(令和4年度)以後、行政機関の各部局、地域・学校等からの連携・協働依頼は年々増えている。次年度は連携の窓口や連携の流れ、校内の受け入れ体制を整理し、今後本格的に動き出す地域の課題解決をテーマにした探究活動や生徒の自主的な地域連携活動(ボランティア活動)を積極的に支援し、生徒の成長につなげたい。</p>	
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
I 更なる学力向上と進路保障	(1)「主体的・対話的で深い学び」をめざし、「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学びに向き合う力」を育成する授業づくりに取り組む。	(1) ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、発表、議論・パフォーマンス課題を通じて「思考力・判断力・表現力」を向上させるとともに、「観点別学習評価」についてさらに研究を進める。「観点別学習評価」については、教科で単元計画・評価計画を策定し、ルーブリックなどを共有しながらチームで取り組む。 イ リーディング GIGA ハイスクール指定校として、1人1台端末や導入された最新型プロジェクター等のICT機器を活用し、対話的に思考を深め、学び方を協働的に学ぶ授業をめざす。1人1台端末活用のアクションプランを意識し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。 ・授業力向上委員会(教育課程委員会)を中心に授業見学週間、授業力向上研修などの授業力向上のシステムの取り組みを推進し、生徒の主体性を伸ばす授業の工夫を行う。 普通科改革支援事業の研究校としての取り組みを推進する。	(1) ア、イ ・生徒向け学校自己診断結果の授業満足度86%以上[88.3%] ・生徒向け学校自己診断結果の授業の工夫度86%以上[92.0%] ・授業アンケートの教員平均3.4以上[3.4] ・研究校として、最新型プロジェクター等のICT機器を活用し、対話的・協働的に学んで思考を深め、主体性を育む公開研究授業週間を年2回実施	(1) ア、イ ・授業満足度85.6% (○) ・授業の工夫度91.7% (○) ・授業アンケート平均3.4 (○) ・公開研究授業週間を年2回(1学期、2学期)実施 リーディングGIGAハイスクール授業公開を2回(7月、11月)実施 (○) リーディング GIGA ハイスクール事業は今年度で終了。「教員による生徒の端末を活用した授業」が55%以上となり、66%の教員が「端末を活用することによって学習効果が得られている」と感じている。端末を活用する授業について、生徒からは80%超える肯定的な評価を得ており、3年間事業を推進した結果として評価できる。今後も、ICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。

府立狭山高等学校

	<p>(2) 第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。</p>	<p>(2)</p> <p>ア 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、3年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。</p> <p>イ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。</p> <p>ウ 国公立大学・難関私立大学ゼミを実施し、難関大学への入試に必要な力を育成する。</p> <p>スクール・ミッション、ポリシー策定をふまえて、進路実績向上をめざしたカリキュラム、補習講習、部活動・行事・広報を含めた方向性を拡大経営会議・運営委が示し、「チーム狭山」として教育活動に取り組む。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・生徒向け学校自己診断結果カリキュラム満足度 86%以上 [90.0%]</p> <p>・教員向け学校自己診断結果の系統的な進路指導 75% [83.3%]</p> <p>イ・生徒向け学校自己診断結果のキャリア教育満足度 90%以上維持 [94.8%]</p> <p>ウ・国公立大学・関関同立合格者：延べ 70 人以上 [40 人]</p>	<p>次年度も継続して、校内授業見学週間・教員研修等を実施し、各教科の授業研究及び文理探究科(地域共創)による探究的な学びの構築を進め、授業力を高めていく。</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム満足度(生徒) 86.8% (○) ・系統的な進路指導(教員) 81.6% (○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育満足度(生徒) 91.4% (○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学・関関同立合格者：52 名 (△) <p>生徒個々の希望進路やニーズに応じて、各教科担当が放課後・長期休暇期間中に講習会を実施し、進路実現のサポートに努めた。</p> <p>学校教育自己診断の結果と分析 [令和 8 年 1 月実施分] の【1 学習指導】【2 進路指導】を踏まえて、生徒の実態やニーズを分析・共有し、共通認識のもと、分掌・学年団・各教科等が連携した生徒指導・進路指導を進めていく必要がある。</p>
<p>2 キャリア教育のための環境づくり</p>	<p>(1) 夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 国際交流(姉妹校連携)や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域連携(大阪狭山市唯一の高校)の取り組みや SDGs 等をテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高めるプログラムを展開する</p> <p>イ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要なプログラムを準備する。</p> <p>ウ 読書活動を推進する(探究的な学びとしてビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る)。</p> <p>エ 拡大経営会議、普通科設置委員会(仮)、国際交流部会、地域交流部会などが中心となって、国際交流及び地域交流の取り組みを推進する。</p> <p>普通科設置委員会(仮)、普通科広報委員会、総合探究委員会が、「総合的な探究の時間」を含む探究的な教育活動の3年間の計画を示す。</p>	<p>(1)</p> <p>アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校自己診断結果の「国際交流の魅力」75% [80.9%] ・生徒向け学校自己診断結果の「ボランティア意識」75% [75.1%] <p>狭山池クリーンアクション等地域の活動を紹介し参加を促す</p> <p>ウ・探究的な学びの一環としてビブリオバトル大会を実施する</p> <p>エ 3年間を見通した探究的な教育活動の計画作成</p>	<p>(1)</p> <p>アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国際交流の魅力」86.1% (○) ・「ボランティア意識」74.3% (○) <ul style="list-style-type: none"> ・狭山池まつりへの参加 500 人 ・狭山池クリーンアクションへの参加 50 人 ・新春子どもまつりへの参加 100 人のべ 650 人 (○) <p>オーストラリア姉妹校 Carey 校とは、6月にオンライン交流、8月に本校生が渡豪して交流、9月末、Carey 校が来日して交流。韓国の景福高校とは、12月にオンライン交流を実施。</p> <p>ウ・2年生の総合的な探究の時間において、ビブリオバトル大会を開催。各クラス代表選抜誤、学年全体の大会を実施。(○)</p> <p>エ 新学科の3年間を見通した探究的な教育活動の計画が完成、そのうえで令和8年度入学生(47期)1年次のプログラムを作成。今後、単元の指導と評価の計画やテキストブックの作成に取り組んでいき、授業実践を重ねながら評価・改善して内容をブラッシュアップしていく。(○)</p> <p>探究的な学びをどのように指導し評価したらよいかという点について、教員間に「もっと知りたい」、「まだ学び足りない」という思いがあると思われる。次年度も引き続き先進校の視察を行い、視察者が得た学びを校内で共有する。また、令和8年度入学生(47期)の具体的実践を通して、各教科における「探究的な活動」や「総合的な探究の時間」の理解を深めるとともに、その指導や評価の研究・研鑽を進めていく。</p>

	<p>(2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。</p> <p>(3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。</p>	<p>(2)</p> <p>ア すべての生徒に、基本的人権や人権問題の認識を広め、高い人権意識を育てる。</p> <p>イ 教職員研修を実施し、教職員の人権意識の向上と人権課題についての理解を深める。</p> <p>(3)</p> <p>ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SC・SSWとも連携しながら、教育相談支援委員会のコア会議を定例開催とするなど生徒支援体制を充実させる。特に、入学以前から生活環境に課題のある家庭やヤングケアラーの実態については、高校生活支援カードや日常生活アンケートなどを活用し、早期発見・把握に努め、適切な支援につなげる。</p> <p>イ 自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しい人間性を高めるために、部活動、生徒会活動等の活性化を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を多く与える工夫をする。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・生徒向け学校自己診断結果の人権意識 85%以上維持 [87.3%]</p> <p>イ・教職員向け学校自己診断結果の人権への取り組み 70%以上維持 [74.4%]</p> <p>(3)</p> <p>ア・生徒向け学校自己診断結果の教育相談満足度 75%以上維持 [75.3%]</p> <p>・保護者向け学校自己診断結果の相談体制満足度 75%以上 [73.4%]</p> <p>・教職員向け学校自己診断結果のカウンセリングマインド 85%以上維持 [81.3%]</p> <p>イ・生徒向け学校自己診断結果「学校生活満足度」90%以上維持 [91.7%]</p> <p>・部活動加入率 70%程度維持 [75%]</p>	<p>(2)</p> <p>ア・人権意識（生徒）87.4% (○)</p> <p>令和7年度人権作文コンクールで、4名の生徒（1年生2名、2年生2名）が優秀賞を受賞。</p> <p>イ・人権への取り組み（教員）73.0% (○)</p> <p>・教員対象にして、性の多様性に関する人権講演会・に加えて、フィールドワーク研修を実施。</p> <p>(3)</p> <p>ア・教育相談満足度（生徒）74.6% (○)</p> <p>・相談体制満足度（保護者）69.7% (△)</p> <p>・カウンセリングマインド（教員）83.3% (○)</p> <p>・2/13に教育相談に関する教員研修を実施。</p> <p>イ・学校生活満足度（生徒）91.3% (○)</p> <p>・部活動加入率(2学期末) 74% (○)</p>
<p>3 学校改革に向けての体制づくり</p>	<p>(1) 教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。</p> <p>(2) 学校を取り巻く関係団体（PTA、同窓会、小中学校、後援会、地域行政、地域住民）との関係強化と広報・情報発信に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、組織的な対応を推進する。加えて、地震・台風等の自然災害、インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。</p> <p>イ 昨今の教職員の業務の増加をふまえ、さらなる「働き方改革」を推進し、校務の精査と教職員の負担軽減、職務の平準化を図る。</p> <p>ウ 超過勤務の削減及び各種休暇の計画的取得を推進する。部活動指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 中高連携として、中学校との授業交流・クラブ交流を実施し、教育内容の充実につなげるとともに広報・情報発信に取り組む。</p> <p>イ 地域の行事への参加や「狭山カップ」等の実施により地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し交流を深める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校自己診断結果の「いじめへの対応」85%以上維持 [90.3%]</p> <p>・教職員向け学校自己診断結果の危機管理 75%以上[62.5%]</p> <p>・年2回の防災訓練実施 [2回]</p> <p>・生徒の健康・安全予防に関する職員研修を年3回実施する。[3回]</p> <p>イ・教職員向け学校自己診断結果の勤務の充実度 85%以上 [84.8%]</p> <p>ウ・教職員一人あたりの超過勤務時間数で前年度より5%削減をめざす [R6:38時間17分]</p> <p>(2)</p> <p>ア 体育祭・文化祭などの本校の行事や、探究的な学びの中での交流を実施。</p> <p>イ 地域の行事への参加やクラブ交流として「狭山カップ」を実施。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「いじめへの対応」（生徒）89.4% (○)</p> <p>・危機管理（教職員）73.4% (△)</p> <p>・防災訓練実施2回 (○) (5月に火事、10月に地震) 消防署や防災士など専門家と連携するなどして、より実践的な防災・避難訓練実施に向けて工夫・改善する。</p> <p>・4/2、4/7、12/8に生徒の健康・安全予防に関する職員研修3回実施。(○)</p> <p>イ・勤務の充実度（教職員）87.7% (○)</p> <p>ウ・教職員一人あたりの超過勤務時間数 (11月末現在 35時間 54分) (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・体育祭(幼稚園)、文化祭(中学校吹奏楽部等)でのコラボ企画、大阪狭山市小中学校の「子ども未来フォーラム」への参画、元気っ子クラブなど、交流の場を広げられた。また、本校教員が希望のあった中学校(4校)で進路に関する出前授業を実施。(○)</p> <p>イ・大阪狭山市公民館の新春子どもまつり、市の防災フェスタ等への文化部の参画、運動部(男子バスケットボール部・女子バレー部)による近隣中学生を招いての合同練習等、地域との交流の機会を生かした。(○)</p>